

## 7. 電気電子 部会

三好 康敦 副部会長

## 7. Departamento Eletroeletrônico

Vice Presidente: Yasutoshi Miyoshi

08年8月

---

# 業種別部会シンポジウム

## 電気電子部会

---

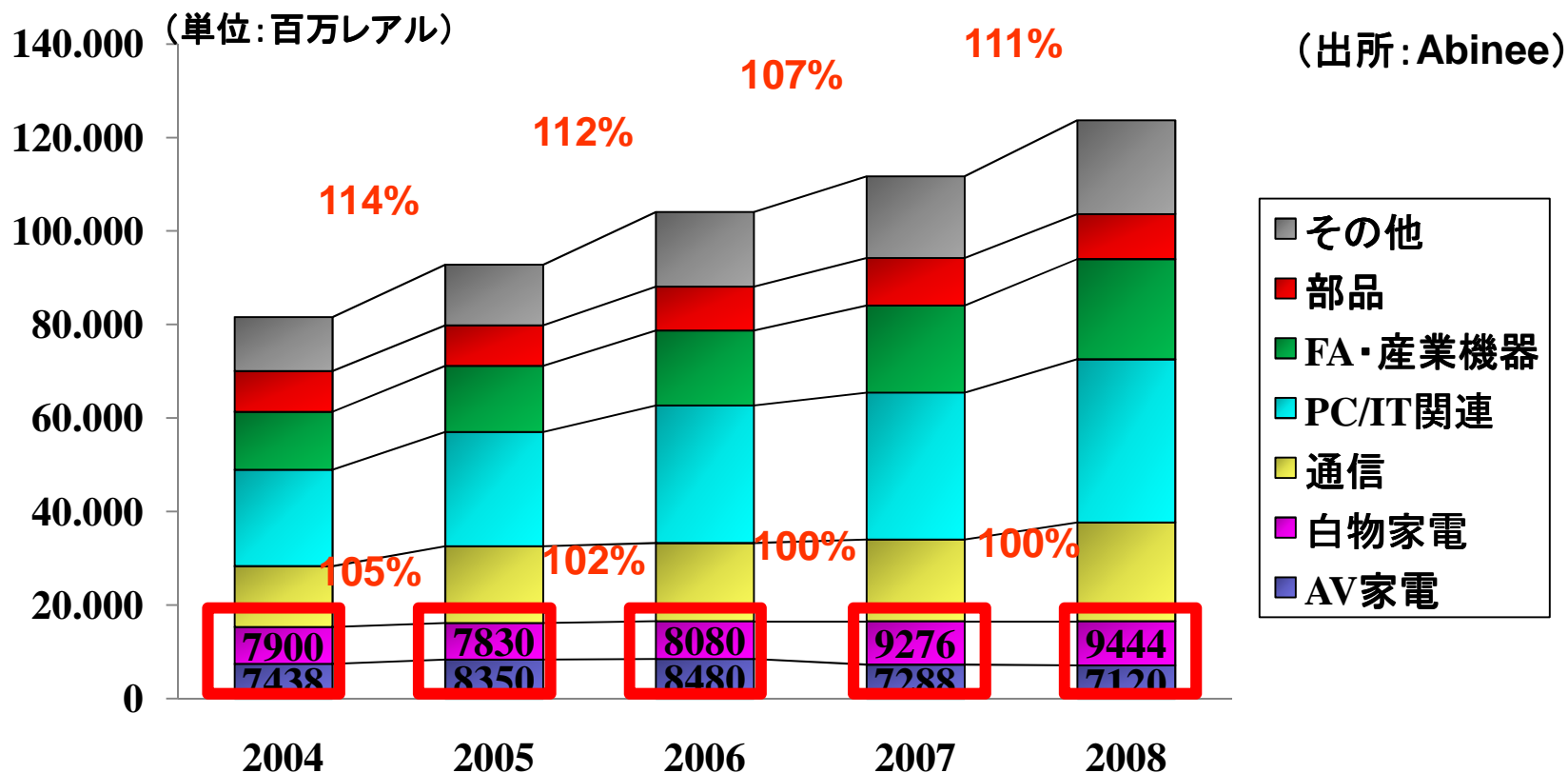
2009年2月17日

ブラジル日本商工会議所  
電気電子部会

# ブラジルにおける電気電子業界規模推移

3

- 通信（携帯）、PCと産業機器関連は二桁成長を達成
- 家電（AV・白物）は金融危機の影響もあり前年100%に留まる



- ・ ヘアルベースでは電気電子産業全体でR\$123,7billion（前年比111%）を達成
- ・ 家電、部品を除きすべてのセグメントで成長（通信121%/FA・産業機器115%）
- ・ AV家電系は薄型TVが倍増（数量ベース）するも単価下落が大きく、金額ベースでは全体で前年並み

# BRICS 投資安定性比較

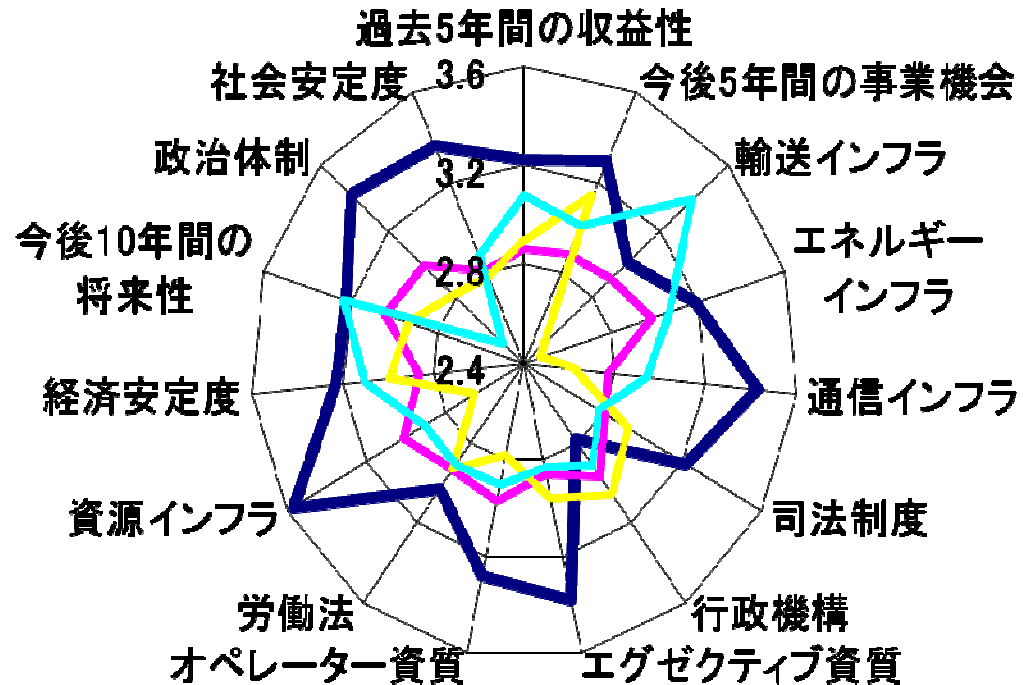
ブラジルは豊富な資源・技術、安定した政治体制の下で中期的な成長余力  
大きい

## 投資安定性ランキング (15項目平均値)

1位	ブラジル	3.24
2位	中国	2.96
3位	ロシア	2.91
4位	インド	2.83

## ブラジル投資安定性(背景)

- ① 多様な産業基盤  
(天然資源・農産物～飛行機)
- ② 民主主義の定着
- ③ 高質の労働力
- ④ 広い国土(利用可能面積)
- ⑤ 整備されたインフラ・司法制度



— ブラジル — ロシア — インド — 中国

# マナウスフリーゾーンの生産動向

5

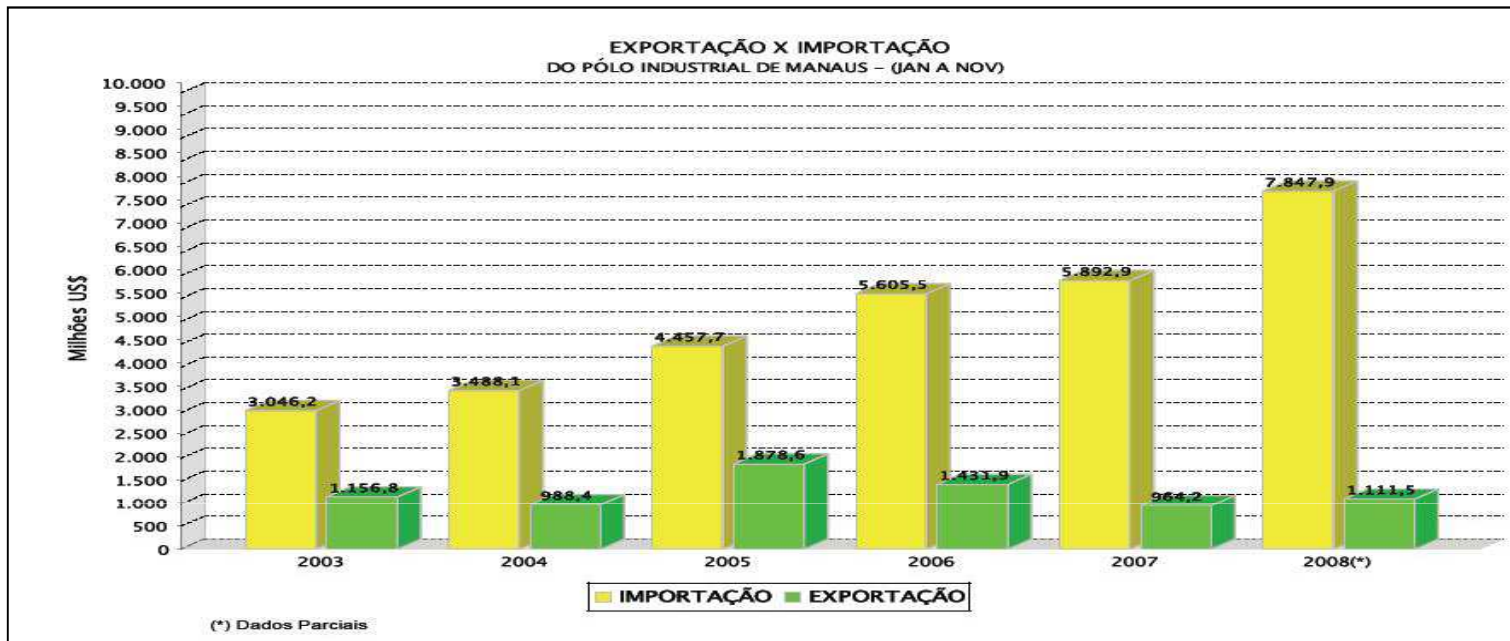
(千台)	2004	2005	2006	2007	2008	VS LY
CRT	8,727	10,691	12,626	10,352	7,939	77%
Plasma/LCD	3	40	381	951	3,104	325%
Portble Audio	1,157	737	234	736	495	67%
Home Audio	1,982	2,396	1,647	834	804	96%
Car Audio	1,867	2,167	2,239	3,235	3,422	106%
Cellular Phone	25,214	38,411	27,465	17,675	22,395	127%
Digital Camera	78	141	359	1,061	1,916	181%
Microwave Oven	1,011	1,309	1,747	2,717	2,472	91%

- ・ 薄型テレビは大きく伸長、CRTについては10百万台を割り減少方向。
- ・ デジカメの伸びは堅調。
- ・ カーオーディオは年間では伸長するも環境変化により後半減速。
- ・ 電子レンジは、高成長が数年継続するも、輸入品流入等で若干踊り場に。

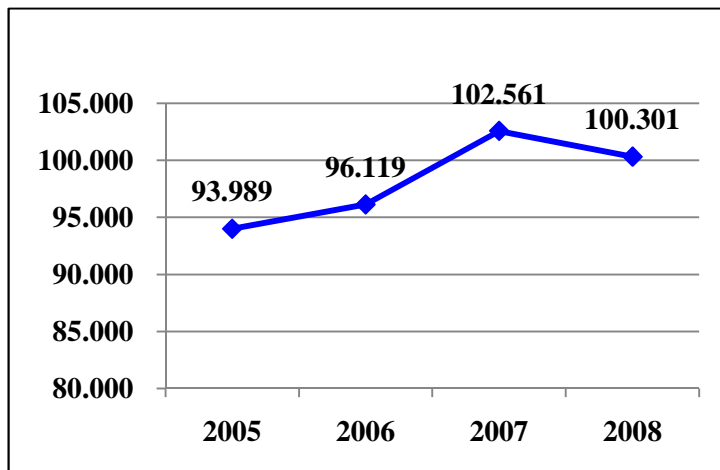
# マナウスフリーゾーンの輸出入、雇用状況

6

## ■ マナウスフリーゾーン 輸出入実績



## ■ マナウスフリーゾーン 雇用者数実績



■ 2008年度も輸入部材の増加傾向は変わらず。輸出については若干の増加傾向を示す。

■ 雇用者数実績については、金融危機後

の雇用調整の結果、2007年度

▲2,260人

# TVの価格状況、部会参加企業の概況

7

(単位:リアル)

	2002	2005	2006	2007	2008
TV21" flat	998	639	549	499	499
TV29" flat	1788	1299	999	799	799
TV32" LCD	22000	6970	3990	2699	1599
TV42" Plasma	48000	9390	4999	3499	2199
TV50" Plasma	70000	19900	9999	5499	3999

・ブラウン管テレビは下げ止まり、大型テレビは依然大幅な価格低下が続く

・家電関連では昨年9月の金融危機の影響による販売減少により、メーカー在庫、流通在庫共に増加した。その為、昨年末は生産調整に入ってメーカーが多かった。又、リアル安による材料費コストアップは、市場での過剰在庫のため市場価格にほとんど転嫁されておらず、各社の収益性に大きな影響を与えているのが現状。

・部品系は金融危機後、納期の引き延ばし等が相次ぎ受注が不安定な状況が継続している。DTV関連についてはセット側も含めて急激な立上は今のところ起こらず。

・事務機器系も金融危機後、販売が大幅ダウン。しかしながら、B to Bの業務効率化関連機器については引き合い、商談等は継続している。

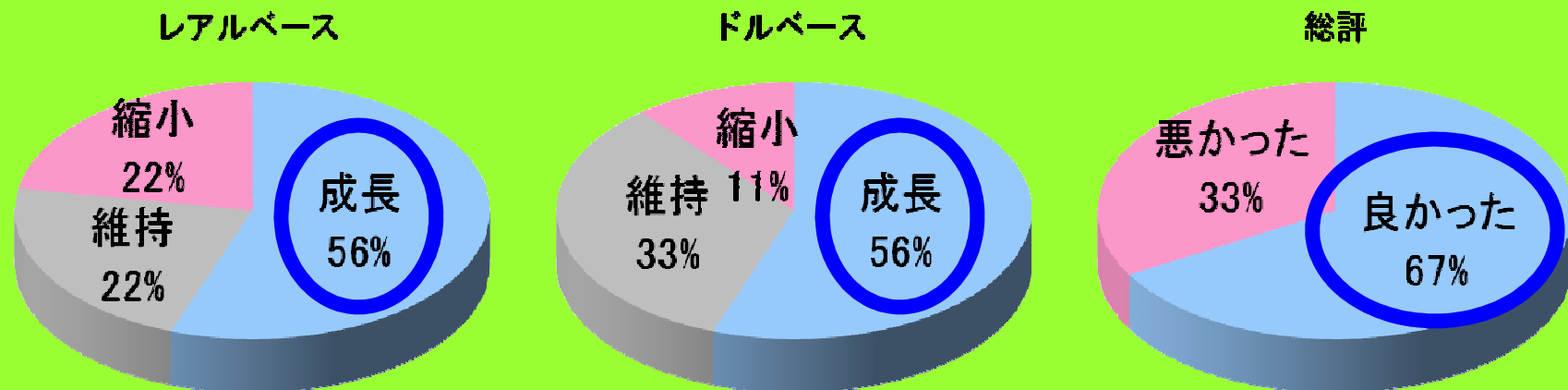
・電子楽器事業は金融危機までは順調に推移も、その後、リアル安の為販売が大きく減少した。

## 【市況・外部要因】

◎前半は好調であったが後半、特に年末には金融恐慌の影響で急激にダウン。

◎売上減と在庫の急増が資金繰りへ影響。

## 【業績評価】



◎2008年度はリアル／ドル両方で概ね維持・成長。

◎結果的に総評も2／3が良かった。

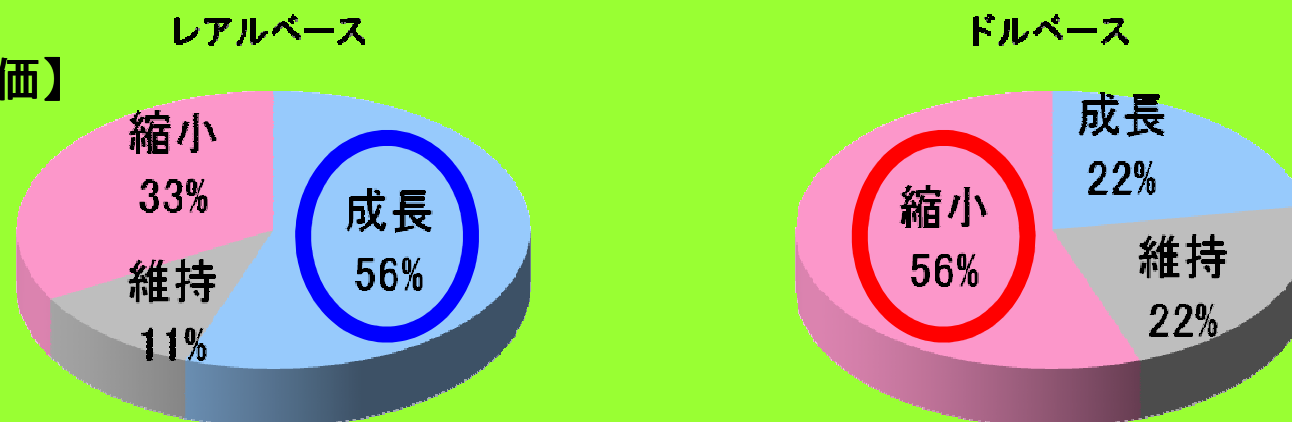


## 【市況・外部要因について】

◎当面は①為替の安定、②利下げ、③消費者向け金融が需要回復に向けてのポイント。

◎貿易収支の悪化、耐久消費財の販売鈍化はあるも後半に向けての回復を期待。

## 【業績評価】



◎2009年度はドルベース売上の縮小・維持が多い（需要減）。

◎しかしレアルの切下げの影響でリアルベースでは大半が維持・拡大を計画。

## 【2009年の経営課題】

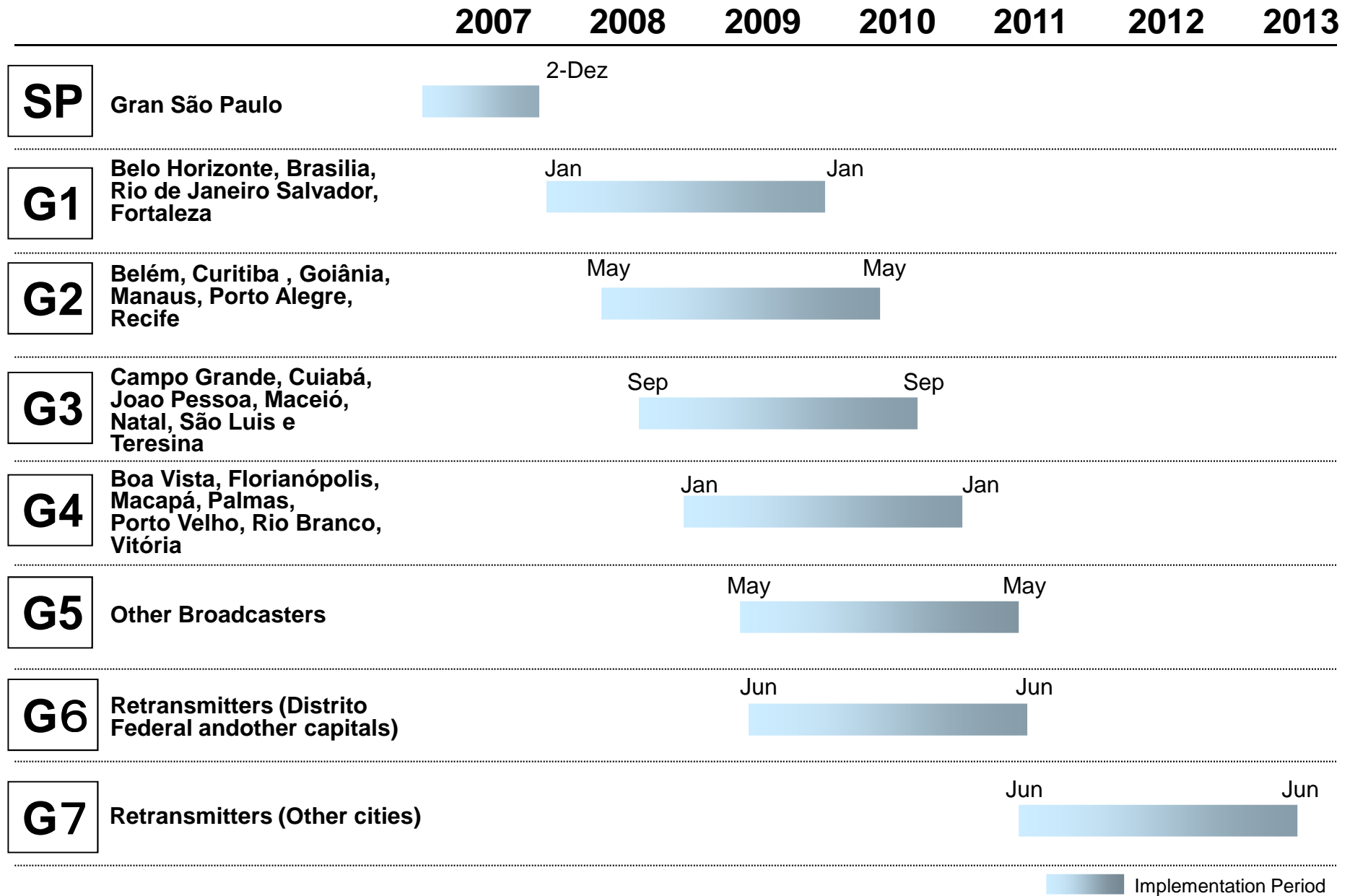
◎キャッシュフロー・資金繰り・在庫＝67%

◎コストダウン・合理化＝56%

◎他にも商品・商流・営業の強化など、事業規模維持・拡大に向けての注力がある。

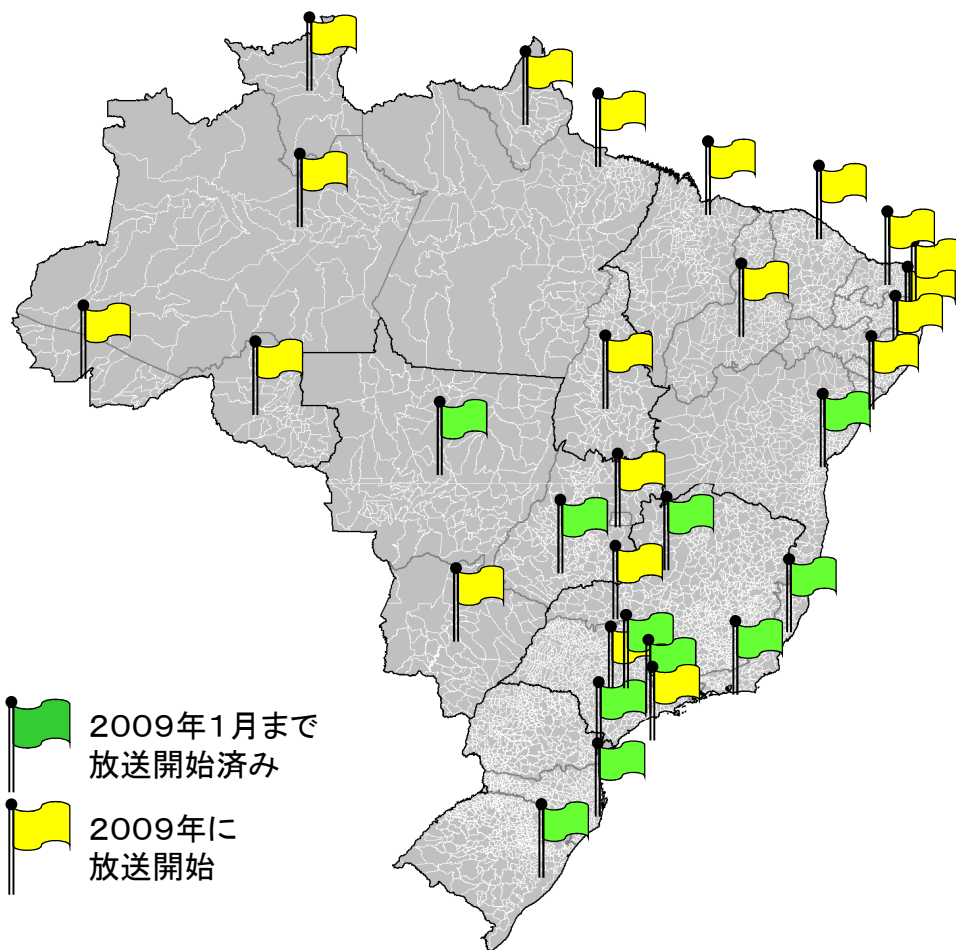
# TV Digital Implementation in Brazil

Source : Brazil's Government - Communication Ministry



# 地デジ放送の地方展開(2009年1月時点)

11



 2009年1月まで  
放送開始済み  
 2009年に  
放送開始

地方	都市名	人口	放送開始時期	
南東部	サンパウロ☆	1,400万人	2007年12月	
	カンピナス	180万人	2008年12月	
	ソロカバ	60万人	2009年03月	
	サントス	80万人	2009年01月	
	リオ・デ・ジャネイロ ☆	700万人	2008年04月	
	ウベルランジア	70万人	2009年01月	
	ベロ・オリゾンテ☆	200万人	2008年04月	
	ビトリア☆	30万人	2009年01月	
	南部	クリチバ☆	180万人	2008年10月
ポルト・アレグレ☆		150万人	2008年11月	
フロリアノポリス☆		40万人	2009年01月	
北東部	サルバドル☆	300万人	2008年12月	
	アラカジュ☆	60万人	2009年08月	
	ジョアン・ペソア☆	100万人	2009年02月	
	フォルタレーザ☆	200万人	2009年02月	
	サン・ルイス☆	100万人	2009年04月	
	マカパ☆	40万人	2009年08月	
	ナタウ☆	80万人	2009年08月	
	マセイオ☆	90万人	2009年08月	
	レシーフェ☆	150万人	2009年06月	
	テレジーナ☆	80万人	2009年08月	
	中西部	ゴイアニア☆	120万人	2008年08月
		ブラジリア☆	250万人	2009年04月
パウマス☆		20万人	2009年08月	
クイアバ☆		60万人	2008年12月	
カンポ・グランデ☆		70万人	2009年01月	
北部	ボア・ビスタ☆	30万人	2009年10月	
	リオ・ブランコ☆	30万人	2009年10月	
	ポルト・ベリョ☆	40万人	2009年10月	
	マナウス☆	180万人	2009年02月	
	ベレン☆	140万人	2009年01月	
合計	31都市(内26州都)	5,530万人		